

PAGE 015 PANEL 2

エクスタント

本名ハンク・ホール。かつてはホークと名乗り、兄弟のドンと共にホーク & タヴというヒーローコンビとして活躍していた。しかしドン、そしてドンの後にタヴの名を継いだドン・グリーンジャーを相次いで殺され、怒りを制御できなくなったハンクはモナークと名乗るヴィランに転じた。さらにウェブライダーから時間旅行能力を奪ってエクスタントと名乗るようになると、その力を使い時間軸の改変を目論んだ。

アル・ロススタインはコブラのテロによる飛行機墜落事故により母親を失って以来、復讐に囚われていたが、エクスタントが作り出した時空の歪みの中での戦闘中、弱ったエクスタントを墜落直前の飛行機に乗っていた母親と入れ替え、エクスタントを殺害すると同時に母親を救い出した。その後アルはこの行為をJSAメンバーに咎められていたが、ブラックアダムに復讐の正当性を認められ、彼の思想に共鳴する。それが彼がJSAを離脱する引き金となった。

PAGE 018 PANEL 1

シルタと息子たち

古代エジプト時代のブラックアダムことテス・アダムの妻シルタと、彼女との間にできた二人の息子ゴンとフルトのこと。

PANEL 3

クフとナプー

クフは古代エジプト王朝の王子であり、カーターの前世の姿。ナプーはロード・オブ・オーダーと呼ばれる高次の生命体で、故郷の星から地球に移り住み、魔術師としてクフ王子に仕えていた。数世紀後、ナプーは自らの力を宿したヘルメットとアマモレットを作り、初代Dr. フェイトとなるケント・ネルソンに与えて後継者とする。

PAGE 019 PANEL 2

コブラ

本名ジェフリー・バー。蛇神カリ・ユガを崇拜し、各地でテロを起こす危険なカルト集団、コブラ・カルトのリーダー。テロ行為として旅客機を墜落させた際、搭乗していたアルの母親を死させた。アルはその復讐心から一度はコブラを手にかかけようとするが、JSAの制止で思いどまり、司法の手に委ねる。しかし裁判にかけられるその日、コブラは体内に発火装置を埋め込んだ信者に裁判所を取り囲ませ、彼らの命を人質に逃げ仰せる。コブラに直接手を下させないJSAに失望したアルは、この時正式に脱退。ブラックアダムの一味に入り、後にアダムと共にコブラを殺害する。

PAGE 030 PANEL 1

ジョーとアル

ジョーは60年代半ばから80年代はじめにかけて活躍した実在のプロボクサー、ジョー・フレイザーのこと。モハメド・アリを倒した最初のボクサーとして知られる。

アルは初代アトムことアル・ブラットのこと。JSA創設メンバーの1人であり、アル・ロススタインの超人的な父親。小柄な体格ながら屈強なプロボクサーで、原動力に由来する超人的な筋力と身体能力を持つ。ワイルドキャットとはチームメイトにあたる。

キャット・デイビス

キャシー・"キャット"・デイビスは実在のプロボクサーで、女子ボクシングの世界ライト級チャンピオン。

PAGE 032 PANEL 3

ナイト・ライト

Dr. ミッドナイトの医療助手。Dr. ミッドナイトがボーツマスを去ったあとと、その地で地域支援活動を続けている。

PAGE 038 PANEL 1

ここに登場するのはリック・タイラーの父親であり、初代アーマンのレックス・タイラー。化学知識に長け、1時間だけ超人的パワーを得られる薬、ミラクロを開発した。JSAの創設メンバーのひとつでもあったが、ミラクロ依存症が原因で引退する。

後にエクスタントとの戦いで死に瀕したが、未来から来たアンドロイドの3代目アーマンに助けられ、タイムポイントと呼ばれる亜空間に隔離された。そこでは息子のリックが訪れない限り時間が進むことがないが、1時間が経過すると死の直前の時間軸に戻されてしまう。

用語解説

PAGE 042 PANEL 2

ベル・レーブ

ルイジアナ州テレボーン群にあるとされる、メタヒューマン専門の架空の刑務所。

PANEL 3

マター・マスター

本名マーク・マンドリル。もともとは科学者だったが、鉛を金に変える錬金術の実験中に爆発事故を起こし、物質を操作できる能力を偶然手に入れた。

PAGE 063 PANEL 2

インフィニティ・インク

主にJSAメンバーの息子や娘たちによって創設された若手ヒーローチーム。まだ10代だった頃のリタ（フューリー）、ヘクター（シルバースカラベ、後のDr. フェイト）、アル（ニュークロン、のちのアトム・スマッシュャー）、ノルダ（ノースウインド）、ジェニー（ジェイト）、トッド（オブシディアン）の6人がJSAに入団を希望するも、その不熟さから入団を却下される。彼らに同情した初代スターズバングルド・キッドがJSAを脱退し、ヘンリー（ブレイン・ウェーブJr.）とカレン（パワーガール）も加えてインフィニティ・インクを設立した。後にリック（アーマン）もチームに加入する。

PAGE 064 PANEL 2

ケント・ネルソン

初代Dr. フェイトにして、JSA創設メンバーの1人。考古学者の父と共に発掘した遺跡でナプーと出会い、Dr. フェイトとなった。以後、妻のインザと共に、ロード・オブ・オーダーの代理人としてモードルをはじめとするロード・オブ・カオスの代理人と戦ってきた。何代かの代替わりのち、現在はヘクターがヘルメットを引き継いだ。

PAGE 079 PANEL 1

ゴードン博士

科学者ブルース・ゴードンは、エクリプソを宿すブラック・ダイヤモンド「ハート・オブ・ダークネス」を発見し、エクリプソに取り憑かれた最初の人物。エクリプソから解放された後、「JSAがブラック・ダイヤモンドを破壊する方法を見つけた」というアレックスの嘘を信じ、集めたダイヤの欠片を彼に提供していた。

PAGE 097 PANEL 2

スペクター

人間を宿主にし、強大な力を受ける復讐の精霊。かつてはジム・コリガンを宿主とし、JSAの創設メンバーとなった。

PAGE 098 PANEL 3

リタ

フルネームはヒツポリタ・"リタ"・トレバー・ホール。初代フューリーである母の名を継ぎ、2代目フューリーとなった。母譲りの超人的パワーを持ち、その名前は師匠として彼女を鍛えたゴールデンエイジのワンダーウーマンこと女王ヒツポリタに因む。インフィニティ・インクで共に戦ったヘクターと恋に落ち結婚したが、ヘクターが一度死んで復活して以来行方がわからなくなっていた。

PAGE 116 PANEL 1

ここに登場するのはキャプテン・マーベルの宿敵で、金星から来た芋虫に似た宇宙生物、Mr. マインド。胸に取り付けた機器を通して人語を喋り、耳から体内に侵入して人間の精神を乗っ取ることができる。

PAGE 134 PANEL 3

メリー

フルネームはメリー・ベンベルトン。初代スターズバングルド・キッドだったシルベスター・ベンベルトンの義理の姉妹であり、かつてはギミック・ガールと名乗りシルベスターと共にヒーロー活動をしていた。やがて初代ブレインウェーブのヘンリー・キングSr.と彼がヴィランだと知らぬまま結婚し、息子のヘンリー・キングJr.が産まれた。

BLACK ADAM™

ブラックアダム/JSA:ブラックレイン

COMMENTARY

解説

ブラックアダムが誕生したのは、キャプテン・マーベル（現シャザム）から遅れること5年の1945年のことである。胸に稲妻のシンボルをあしらった漆黒のコスチュームを纏い、6柱のエジプト神からそれぞれシュ어의スタミナ、ホルスの神速、アモンの剛力、ゼフティの叡智、アトンの全能、メヘンの勇気を授かる。キャプテン・マーベルと鏡像関係とも言えるブラックアダムは、数ある宿敵のなかで最も人気の高いヴィランと言えるだろう。

だが、今でこそ複雑な背景を持ち、時にはアンチヒーローとも呼ばれる複雑なキャラ造形を得たブラックアダムも、登場した当初は強大なパワーに溺れ世界征服を企むだけの単純なヴィランだった。登場から80年近い月日を経て、徐々に肉付けされ現代にも通じる魅力的なキャラクターに成長したのである。

本書は、ブラックアダムの変遷を知るにあたり重要なエピソードを記者が厳選した日本特別編集版となっている。ドウェイン・ジョンソン主演で2022年12月公開予定の映画『ブラックアダム』の下敷きとなる『JSA：ブラックレイン』（2005年6月刊行）を中心に、ブラックアダムの歴史的初登場エピソードである『マーベル・ファミリー』#1（1945年12月）、フォーセット・コミックスからDCコミックスに出版の権利が移ったのち、はじめてスーパーマンとキャプテン・マーベルが共闘してブラックアダムを倒す『DCコミックス・プレゼンツ：スーパーマン・アンド・シャザム！』（1982年9月）の3篇を収録している。

40年代、80年代、2000年代と、時代を追うごとにブラックアダムの描かれ方がどう変わっていったのか、各エピソードの背景を解説しながら辿っていこう。

『マーベル・ファミリー』#1

1940年、キャプテン・マーベルはフォーセット社のコミック部門立ち上げとともに、同社を背負う看板ヒーローとして世に送り出された。「読者と同世代の少年が大人の超人に变身する」というコンセプトが見事に当たり、やがてライバル社DC・コミックスの看板スーパーマン誌の売り上げを追い抜く大人気を博した。その人気を追い風に、41年に弟分のキャプテン・マーベルJr.、42年に妹分のマリー・マーベルが登場。それぞれが独立したタイトルとして創刊された。

そしていよいよ1945年、3人のヒーローがチームアップして活躍する月刊誌、「マーベル・ファミリー」が創刊される。それまでの5年間にもDr. シヴァナ、Mr. マインド、Mr. アトムといった人気ヴィランたちが活躍していたが、記念すべきはじめてのマーベル・ファミリー集結にあたり、彼ら3人にふさわしい恐るべき強敵として華々しく新登場したのがブラックアダムだった。

とはいえブラックアダム以前にも、キャプテン・マーベルと同一のコンセプトを持つヴィランはいた。悪魔から力を借り、イヴァ

ン雷帝、チェーザレ・ボルジア、アツティラ王、カリギュラ皇帝の頭文字を繋げた呪文を唱え、貧相な中年男性からレスラーのような巨漢に变身するアイバック (IBAC) だ。フォーセット時代に限れば、アイバックが1942年の初登場以来レギュラーヴィランとして度々登場したのに対し、ブラックアダムは本作で登場して最後に倒されたきり退場するいわば一発屋である。それが今では完全に知名度も重要度も逆転しているのは、ひとえにビジュアルの魅力と、オリエンタリズムのきらいはあるが、時代に合わせて肉付けされるに足る、しっかりとした土台となる設定があったためだろう。

なお、新シリーズの創刊号だけあって、ライターはフォーセット時代のキャプテン・マーベル関連誌の実に7割を手掛けたオットー・バインダー、アーティストはキャプテン・マーベルをデザインしたC.C. ベックといずれも主力クリエイターが務めている。新しい読者のためにマーベル・ファミリー全員のオリジンを語りなおす親切設計なので、本書に収録するに相応しい一編だ。